

# 新年度活動方針など決める

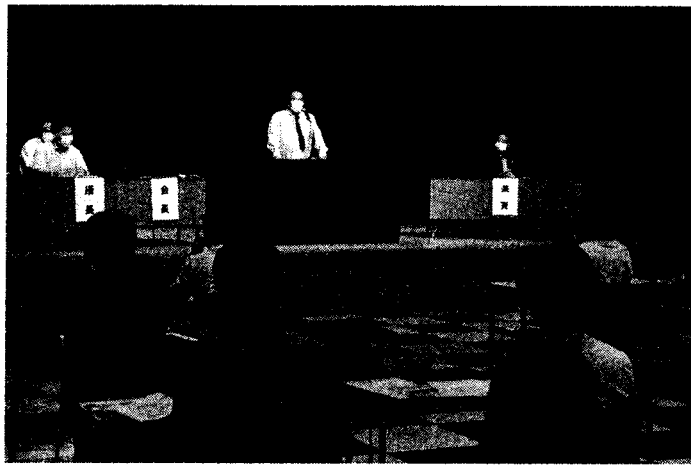
## 富士宮地区労福協が総会

富士宮地区労働者福祉協議会（小林純一会长）の2021年度第56回総会が16日、富士宮市民文化会館小ホールで開かれた。新型コロナウイルス感染症対策として最小人数での開催とした上で、新年度の活動方針と予算、メイン・サブスローガンなどを審議・決定し、勤労者の福祉向上に向け気持ちを新たにした。

新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな事業が中止となったが、55周年を記念した事業は無事開催できた。本日の総会から本年度がスタートするが、労働者福祉のさらなる発展を考えながら頑張っていきたい」と述べた。

来賓の須藤秀忠市長は「コロナ禍で先行きが不透明な状況が続く中、勤労者の快適な労働環境を創造するには、皆さんと行政との連携が重要になる。今年後も皆さんと共に勤労者にとってより充実した労働環境づくりを推進していくので、理解と協力をお願いしたい」と呼びかけた。

新年度の活動方針では、「引き続き、新型コロナウイルス感染症によるさまざまな影響が続くが、厳しい状況が続く中であるからこそ、労福協の掲げる『共助の心』、人と人とのつながりがますます重要となると考え、富士宮地区労福協に集う勤労者の生活・福祉の向上と労働者福祉事業団体の育成強化を目指して、労働組合、互助会、親睦会、従業員会ならびに福祉関係団体の協力と参画の下、活動を進めていく」とした上で、基本理念、運動の原則、具体的な活動方針を決定。メインスローガンを「すべての働く人の幸せと豊かさを目指して 連帯・協同で 安心・共生の福祉社会をつくるぞ!!」と定めた。



あいさつする小林会長